

お薬談話

服用者に親切で分かり易い置き薬の能書き

「やせ型で腹部筋肉が弛緩する傾向にあり、胃痛または腹痛があつて、とき胸やけ、げっぷ…」

このように書かれた「薬の能書き」(効果・効能)を目にしたとき、大多数の人たちは「この薬は自分には当てはまらない」と判断するでしょう。

ところが、これが「配置用」(置き薬)の能書きとなると、同じ漢方胃腸薬の『安中散』でも、「胃もたれ、食欲不振、胸やけ」と、日常よくある胃の症状の表現になります。

風邪薬を飲むと胃に來る、あるいは、胃腸が弱くて市販の風邪薬が服めない、といった人は潜在的に多数おられますが、

「胃腸虚弱で神経質な人の風邪の初期」と書かれていると、「神経質な人」という表現がネックになって、「売れない風邪薬」になります。

それが「体力虚弱で、神経過敏で気分がすぐれず、胃腸が弱いもの」の次の諸症・かぜの初期、血

は自分には当てはまらない」といった判断はあまり変わらないことでしょう。

ところが、これが「配置用」(置き薬)の能書きとなると、同じ漢方胃腸薬の『安中散』でも、「胃もたれ、食欲不振、胸やけ」と、日常よくある胃の症状の表現になります。

風邪薬を飲むと胃に來る、あるいは、胃腸が弱くて市販の風邪薬が服めない、といった人は潜在的に多数おられますが、

「胃腸虚弱で神経質な人の風邪の初期」と書かれていると、「神経質な人」という表現がネックになって、「売れない風邪薬」になります。

それが「体力虚弱で、神経過敏で気分がすぐれず、胃腸が弱いもの」の次の諸症・かぜの初期、血

配置用医薬品の『効能書き』はすごいぞ！！



の道症」などと変更されたいのでは、こんどはまるで「女性の薬」のように思われて、男性はみんな、この風邪薬を敬遠するでしょう。

以上は、『香蘇散』の「効能書き」ですが、これが配置薬基準に則った配置用薬の『香蘇散』の



「効能書き」では、「胃腸の弱い人の風邪の初期」となります。この配置薬の「効能書き」であれば、服用対象者が一気に広がるように思われますが、いかがでしょうか？

薬はもちろん、中味が大切です。中味が大切にすが、でも、「売れる」「売

れない」となると、「効能・効果の表示のあり方」に大きく左右されます。最初の『安中散』で言

えば、『安中散』は精神的ストレスによる神経性胃炎、胃潰瘍の「痛み」によく用いられる処方ですが、消費者が漫然と服用して、病状が進行し、医療機関への受診が遅れて、

配置の皆さん「配置の優位性」ぜひ活かして

「能書き」部分についても、実際に読んでいっして、少しでも自分の体質や症状などと合わないように思うところがあれば、医薬品メーカーのお客様相談室に電話をかけてくる消費者がいらっしゃる

「効能書き」では、「胃腸の弱い人の風邪の初期」となります。この配置薬の「効能書き」であれば、服用対象者が一気に広がるように思われますが、いかがでしょうか？

薬はもちろん、中味が大切です。中味が大切にすが、でも、「売れる」「売

係ありません。イメージが効能のシバリにむすびついた例です。

「色白で…」とされたのは、「ポッチャリ型の色白美人」を『防己黄耆湯』の典型タイプと考えたためでしょう。

今回の漢方の効能表現では変更されましたが、関節の痛みに繁用する『防己黄耆湯』(ぼういおうぎとう)は、「色白で…」から始まっています。

「色白」とあれば、色の黒いインド人や東南アジアの人たち、あるいは黒人は対象外となりますが、インドから日本に帰化した料理人の膝の痛みに用いたところ、とても良く効いて、2カ月で全快しました。

漢方では、膝関節の痛みを下げることができても、高血圧や糖尿病を治療に導くことはできません。

漢方では、膝関節の痛みを下げることができても、高血圧や糖尿病を治療に導くことはできません。

その点、配置販売業の皆さんは、ご紹介さえあれば、たとえ遠くにも出かけて行ける優位性があります。この優位性を活かして、新しい配置先を増やす手立てをお考えになってみられては、如何でしょうか。

（永井達夫 東洋漢方製薬株式会社代表取締役社長）

※ 筆者紹介 昭和26年7月大阪生まれ。テルモ(株)富士宮工場生産技術課勤務を経て昭和51年4月に東洋漢方製薬(株)に入社。昭和60年6月に同社代表取締役に就任して現在に至る。東洋漢方製薬(株)本社 大阪府大阪市中央区日本橋一丁目一〇、シヨリビル4階)は、顆粒状漢方の創始者・永井藤治が昭和46年4月に長倉製薬の薬局部門譲渡を受け創立された製薬会社。

漢方では、膝関節の痛みを下げることができても、高血圧や糖尿病を治療に導くことはできません。